

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 豊郷 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年 国語 199人 社会 199人 数学 199人

理科 199人 英語 199人

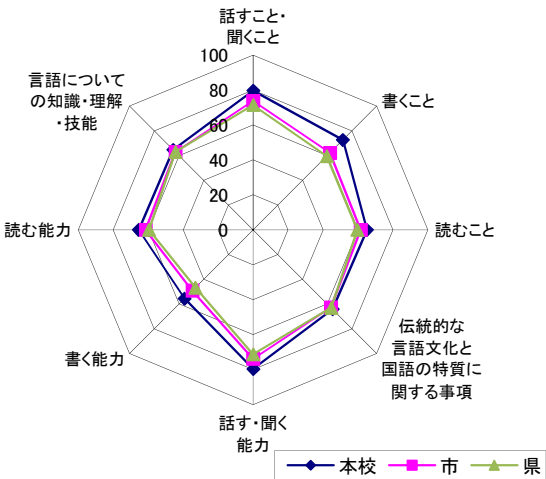
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.6	73.8	71.3
	書くこと	72.6	62.2	59.6
	読むこと	65.1	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.3	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	79.6	73.8	71.3
	書く能力	55.6	49.2	46.8
	読む能力	65.5	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	64.7	62.9	62.9



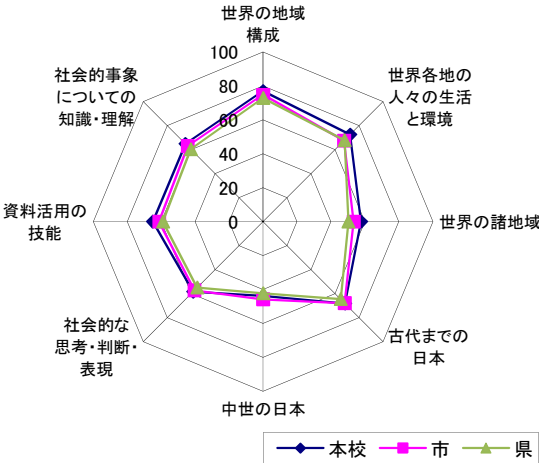
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県・市、いずれの数値と比較しても良好な数値を示している。特に話し合い活動の「司会者の話し合いの進め方の工夫」に関しては89.9%、「出された意見をよりよくするための意見を適切に述べる」ことに関しては81.4%の正答率と、8割を超えることができた。 ●上記した問題に対して、「聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫」に関する問いは67.3%の正答率となっている。	・発言する際に聞き手が理解しやすいよう、さまざまな工夫を効果的にするための支援を行っていく。 ・実際のコミュニケーションにおいても「効果的に自分の考えを伝えるための工夫」を常に考えられるように支援する。
書くこと	○「書くこと」の領域においては正答率で市を10.4%、県を13%上回っている。特に作文に関しては県の正答率を大きく上回っており、良好な状況となっている。 ●文学作品の内容を理解して登場人物の心情を的確に読み取り、記述する問いに対しての正答率が低くなっている。県との比較に関しては上回っているものの、表面上には描かれない「心」を読み取ることができていないことが明確となった。	・日頃の授業から、生徒は「書くこと」を苦手としている。自分の考えや思いを正しく文章化することに慣れていない傾向があり、抵抗があると考えられる。作文という形式ではなく、体育祭や文化祭などの学校行事の後に書くことの多い「振り返りシート」を用いることで、短文から徐々に書くことへの抵抗を無くしていけるよう支援する。
読むこと	○「読むこと」に関しても正答率で県・市の両者を上回っている。説明文にせよ小説にせよ、特に話の内容を読み取ることに理解が進んでいると言っている。 ●細かな表現の工夫や語句の用いられ方に関しては理解力がやや不足している傾向にある。また、「書くこと」と同様になるが、その作品を読んで、自分がどういう感想を持ったか、どういう気持ちになったかを明確にすることも課題となっている。	・話の内容自体は理解することができるものの、筆者の考えや登場人物の心情を的確に読み取ることが課題となっている。生徒は「文章中から抜き出す」ことが癖になっており、書かれている描写、または記号(「…」や「——」)や行間に込められたものを理解していく力が不十分である。真の意味で作品をしっかり読んでいけるよう授業を重点化していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○この領域に関しても正答率は県・市の両者を上回っている。 ●生徒の日常生活の中で用いることのない、またはほぼないであろう語句の漢字に関して、正答率が下がってしまう傾向が今年度も続いてしまっている。文法事項も含め、新聞やコラムなどの文章に今以上に触れさせる必要がある。	・日常生活や普段のコミュニケーションの中で用いられることの少ない語句を定着させていくのは難しい。新聞などの整った文章を読ませたり、多くの練習問題をこなしたりすることで語彙力や文章力の伸長につなげたい。また、文法においては1学年時の履修事項が不徹底の生徒も多いことから、基礎的な問題から応用問題までの小テストを行うなど正答率70%を目標にし、支援していく。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	76.9	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	72.5	67.5	67.8
	世界の諸地域	57.7	53.4	50.2
	古代までの日本	68.2	68.0	64.6
	中世の日本	43.8	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	58.4	57.3	55.0
	資料活用 の技能	65.0	61.4	59.1
	社会的な事象についての知識・理解	64.8	62.9	60.3



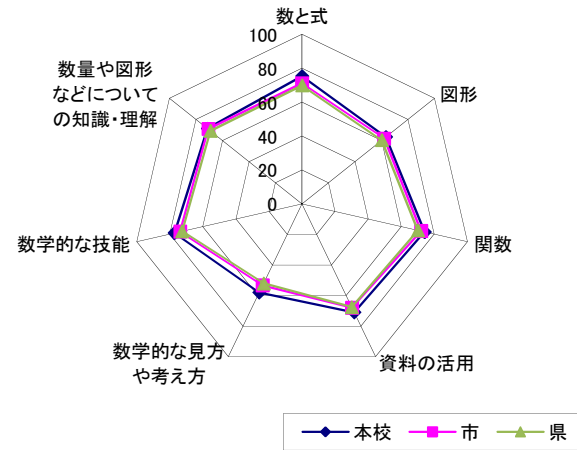
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「様々な世界地図の活用」では91.0%という高い平均正答率となっている。また、「経度と緯度の理解をもとにした地図の読み取り」では前年度より10%以上正答率が上がっている。 ●全体としては県の平均は上回っているものの、「赤道」の項目の正答率が県の平均値よりも低い傾向にある。	・世界の諸地域の領域は、1年生のはじめに学習する領域ということもあり、他の領域に比べ苦手意識が少ない生徒が多い。しかし、緯度や経度の読み取り、地図の活用になると、正答率は下がる傾向がある。地理的な区分や地図の活用は他の領域の基本となってくるため、復習テストなどを多く取り入れていく。
世界各地の人々の生活と環境	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「雨温図の読み取り」では、93.0%という高い平均正答率となっている。 ●全体としては県の平均は上回っているものの、「住居に対する理解」や「雨温図を判断する」「生活について判断する」項目の正答率は他の項目と比べると、5・6割台とやや低い傾向であった。	・世界各地の人々の生活と環境の領域は、写真などの資料を多く扱うこともあり、興味を持ちながら学習をすすめている生徒が多い。しかし、資料を判断するという項目になると、正答率は下がる傾向がある。資料の活用の力、さらに判断する力をつけるため、資料を異なる方向から考えさせたり、判断させたりする機会を増やしていく。
世界の諸地域	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「オセアニアの自然環境」では県の平均を10ポイント以上上回っている。 ●全体としては県の平均は上回っているものの、「EUの特色」や「EUについての読み取り」の項目の正答率は4・5割台とやや低い傾向であった。	・世界の諸地域の領域として今回出題されたのはヨーロッパ州とオセアニア州の2つ。2つの州を比較すると、ヨーロッパ州の方が正答率が高い結果となった。この領域では州によって生徒の理解度が異なっているため、よりなじみが薄いと思われる州ほど興味や関心を生徒がもてるような授業の工夫をしていきたい。また、資料を用いて判断する項目の正答率が低いので、資料活用の機会を増やしていく。
古代までの日本	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「聖徳太子の政治」や「藤原道長の政治」の項目では7・8割の正答率となっている。 ●全体としては県の平均は上回っているものの、「稲作以前の人々の暮らし」や「平安京についての理解」の項目の正答率は4・5割台とやや低い傾向であった。	・小学校からの学習の延長ということもあり、人物についての基本的な知識を生徒は持ち合わせていると思われる。しかしながら、その知識を活用した読み取りや、時代背景とのつながりという点では理解度がやや低いということが読み取れる。今後は、人物についての基軸としながら、単元の終了時に時代背景の読み取りなどの活動を取り入れていきたい。
中世の日本	○県の平均正答率は上回っているものの、市の平均正答率を下回っている。特に、「年代の表し方」の項目では昨年の校内正答率よりも2.9ポイント上昇している。 ●全体としては県の平均は上回っているものの、正答率の数値が低く、「史実の順番を整理する」の項目の正答率は2割台と低すぎる傾向であった。	・中世とする領域を苦手とする生徒は多く、それを反映した正答率となってしまった。特に、出来事を正確に把握し、それを順番に並べるという項目は多くの生徒が苦手とするところである。今後は重要な人物や出来事について正確に理解させ、復習テストなどの機会を利用して、その整理をはかっていく。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	75.3	71.2	69.8
	図形	63.2	61.9	60.2
	関数	74.2	72.1	70.1
	資料の活用	71.0	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	58.1	53.4	52.1
	数学的な技能	77.2	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	71.3	70.8	69.1



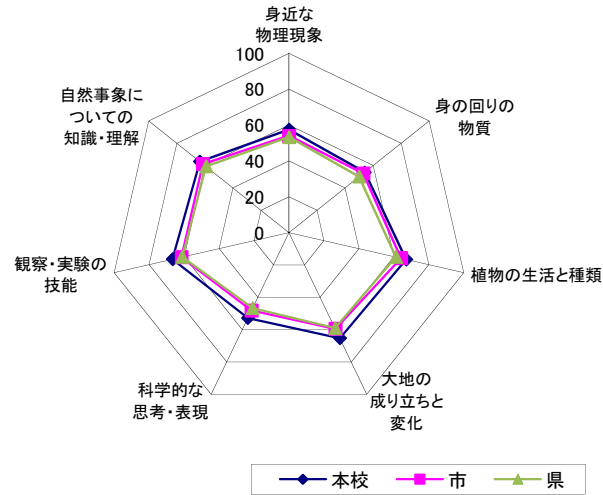
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「正負の数の計算」では98.0%、「比例式を解く問題」では93.5%という高い平均正答率となっている。 ●「小数を含む1次方程式」では61.3%、「文章から1次方程式を立式する問題」では62.8%と、いずれも県の平均は上回っているものの正答率は6割台であった。	・数と式の領域は、他の領域に比べ得意とする生徒が多いが、正負の数の計算、文字式、方程式ともに、問題の中に小数や分数が入ると正答率が下がる傾向にある。特に分数は他の領域でも使用する頻度が高いため、学び直しの時間や計算練習などの繰り返し学習を取り入れていく。
図形	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「三角柱でねじれの位置にある辺を選択する問題」では、80.4%という高い正答率となっている。 ●「球と円柱の体積について、正しい関係を選択する問題」では、38.2%という正答率で、県の正答率を6.5ポイント下回っている。	・図形の問題では、いろいろな角度から図形を見ることが必要となってくる。特に、空間図形では、自分でイメージできることが大切である。そのために授業の中で、模型を使ったり、映像を使ったりすることで、イメージしやすくしていく。また、立体の体積や表面積の問題では、公式にあてはめれば求められるため、繰り返しの練習で確かな力としていきたい。
関数	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「点の座標を読み取ること」では89.4%、「比例の関係について説明した文章を選択する問題」では92.0%、「グラフを利用して目的地に着くまでの時間を求める問題」では86.4%という高い正答率となっている。 ●「比例の式から比例のグラフを書く問題」では54.3%という正答率で、県の正答率を2.6ポイント下回っている。	・関数では、式・表・グラフの3つを関連付けて考えることが必要となってくる。まずは、式が立てられること、表がつけられること、グラフが描けること、を目標に、問題演習を多く取り入れ授業を展開していきたい。その後、式・表・グラフの3つを関連付けて考える活用の問題を扱い、どういう問題場面で式・表・グラフを使うとより効果的かを実感させていきたい。
資料の活用	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「度数分布表から度数を求める問題」では93.0%、「度数分布表から条件に合う階級を選ぶ問題」では89.4%という高い正答率となっている。 ●「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題」では、31.7%という正答率で、県の正答率を0.8ポイント下回っている。	・度数分布表やヒストグラムなどの表の見方は、おおむね理解しているようである。しかし、その読み取った内容を自分の言葉で説明することは苦手としている。資料の活用の領域だけでなく、他の領域の授業でも、生徒が自分の言葉で説明したり、自分の考えを書いたりするような言語活動を多く取り入れるように意識して取り組んでいきたい。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	57.5	54.0	53.3
	身の回りの物質	54.0	52.9	50.0
	植物の生活と種類	67.0	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	65.4	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	52.9	48.2	46.7
	観察・実験の技能	66.7	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	63.6	61.4	59.2



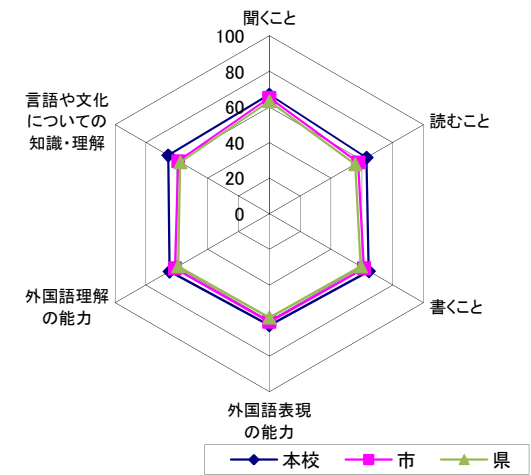
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に、「力と圧力」に関するグラフの読み取りの問題では83.4%と高い平均正答率である。昨年の平均正答率78.0%と比較しても良好である。また全体的に化学的な思考力を要する問題でポイントが高い。 ●「力を矢印で表す問題」では48.7%と平均を下回っている。また基本的な用語の知識理解が定着も課題である。	・観察・実験などの体験を通して用語を正しく理解させるとともに、小テストなどを行い知識の定着を図っていききたい。また、知識の活用ができるよう、知識と図やグラフなどを関連付けて覚える授業を展開していききたい。
身の回りの物質	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「物質のすがた」に関する問題では平均正答率が70%以上と高い。 ●「水溶液の質量パーセント濃度」に関する問題では平均正答率が20%台と低い。「状態変化」のデータの読み取りは平均を2.1ポイント下回っている。	・水溶液の質量パーセント濃度では計算が関わる問題を苦手とする生徒が多いと考えられることから、繰り返し計算練習をする必要がある。また、知識を活用して考えさせる問題を多く取り入れ、データを読み取る力を育みたい。
植物の生活と種類	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「顕微鏡の使い方」の問題では、県の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ●「植物のからだのつくりとはたらき」についての問題では県平均を1.9ポイント平均を下回っている。	・植物は身近に実物があるので、これまで通り様々な体験を通して実感をともなう授業をしていきたい。知識については体験と結び付けて定着できるように取り組んでいきたい。
大地の成り立ちと変化	○県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は上回っている。特に「マグマの粘性と火山の形」についての問題では県の平均正答率を5.0ポイント上回っている。 ●「柱状図からの地層の推定」の問題では、県の平均正答率は上回っているものの、46.7%と約半数の生徒しかできていなかった。	・この分野に関する知識は定着している生徒が多い。しかし知識を図や資料と関連させて考え、活用する力が身に付いていない生徒も多いので、実際の地層や地震に関する資料から読み取る活動を取り入れることで、知識を活用する力をさらに伸ばしていきたい。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.9	65.2	63.2
	読むこと	63.0	57.6	55.6
	書くこと	64.5	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	62.7	60.7	58.4
	外国語理解の能力	64.8	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	65.6	59.2	57.8



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は66.9%と、県のポイントを3.7ポイント上回っている。絵が用いられている問題や英文の要点を聞き取る問題の正答率が高い。 ●対話の内容を聞き取り、資料をもとに思考、判断を要する問題になると、やや正答率が落ちる。	・今後も、インタラクティブなクラスルームイングリッシュ（教室英語）を多く用い、普段の授業の中に英語英問英答の機会を増やしていきたい。ピクチャーカード（絵カード）を使用しての、口頭導入や問答のみならず、友人のスピーチを聞く活動や、フリートーク（自由な英会話）の機会を増やしていきたい。また、質問に対して資料をもとに英文を作って答える練習も多く取り入れて力を付けていきたい。
読むこと	○平均正答率は63.0%と、県の平均を7.4ポイント上回っている。英文の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶ問題は、80～90%の正答率だが、英語で質問や要望に応じる問題は60～70%と正答率が落ちる。 ●長文の内容に関する質問に英語で答える問題に関しては正答率がほかの分野に比べて低い結果となった。	・対話文や説明文など様々な種類の文に触れる機会をもたせCASEスタディーを積み重ねる。 ・教科書のReadの単元などのまとまった英文を読む際に、分析的に指導するだけでなく、短く文章を区切ってその内容を大まかに把握したり、内容を推測するような発問をしていきたい。さらに、要約文を作るような活動も取り入れていきたい。また、英問英答形式の問題を必ず織り込んでいきたい。
書くこと	○平均正答率は64.5%と、県の平均を5.3ポイント上回っている。語形・語法に関する問題と、テーマにそってまとまりのある英文を書く問題は、59～80%の正答率だった。 ●英語でたずねる文を書く問題は正答率が37～38%と低い結果となった。	・口頭導入中での応答や教師側が設定した質問を用いて、それに答える形の活動には慣れているが、自分が英語で質問を考えるという経験が少ない状況である。対話形式の活動でも、最初から質問の文を与えるのではなく、自分で質問の文を考えて書くという活動を行い、それらを用いて対話練習を行わせるようにしたい。またクイズなどを作成しインタラクティブな活動も経験させるようにしたい。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★調査結果から読みとめる傾向

1. 学習について

●質問項目(10)から58%の生徒が学習塾や家庭教師の学習支援を受けており、市・県を上回っている。しかし、家庭学習における自主的な学習計画、予習や復習への取り組みなどの面で、市・県の結果を7～12ポイント下回った。これらのことから、本校生徒には家庭学習に関して消極的・受動的傾向が見られると思われる。また、平日・土日の塾・家庭教師を含んだ学習時間も、市・県よりも若干少ない傾向が見られる。

○学習意欲や探究心に関する質問項目((16)や(17)・(19))では肯定的回答が市・県を3～6ポイント上回っており、本やインターネットを利用しての情報収集((18))や普段の読書活動((11)や(12))も市・県と同じかやや上回る傾向が見られる。

●授業中の話し合い活動に関して、積極的な取り組み((23))や話し合い活動の意義((29))の質問項目で、市・県を4～7ポイント下回った。この傾向は、授業への集中度((30))や発言しやすいクラスの雰囲気((31))の質問項目で、市・県を3～4ポイント下回っていることと関連しているかもしれない。

●教科の学習に関して、社会と英語で「将来への必要感」(88)、(95))は市・県を上回っているものの、授業内容の理解度((71)、(74))や教科学習への好感度((76)、(83))で10～14ポイント市・県を下回った。

2. 学校生活について

●学級内での自己有用感に関する質問((37))で、肯定的回答が46.7%で、市・県の結果を6～7ポイント下回った。この傾向は自分に対する自信に関する質問((50))でも見られる。(肯定的回答48.2%、市・県－5～9ポイント)

3. 家族との関係について

●家族との関係性に関する質問((59)、(60))では80%以上の肯定的回答があった。しかし、家族との会話内容を分析すると、学習に関する会話((61)82.4%)に対して、将来・進路に関する会話((57)65.8%)や家族からの賞賛((58)66.8%)が少なく、市・県の結果も下回った。

★今後の指導上の工夫

1. 学習について

①宿題の意義((15)89.9%)は感じているものの、「やりたくなる内容か」の問い((14))に42.2%しか肯定的な回答をしていないことから、宿題・課題の内容を充実させる必要があると思われる。

②家庭学習への積極的な取り組みを促進するために、学級担任の日常的な日記指導や定期テスト前の学習計画指導を通じて、自主的・計画的な家庭学習を促す。また、学級担任による学習支援として自主学習ノートの提出や、効果的な学習法の相互紹介なども生徒の家庭学習の充実に寄与すると思われる。

③授業中の話し合い活動に関しては、小集団での話し合いの導入やエクササイズ的な基本訓練などを行うなど、その充実に取り組むと有効であると思われる。また、生徒の理解度や意欲が低調な教科については、各教科で更に詳細分析を行い効果的な対策を講じる必要があると思われる。

2. 学校生活について

①学級を中心に集団内での人間関係がより親和的になるような取り組み・働きかけを行うとともに、生徒自身が自分の取り組みの意義を実感できるような働きかけや評価を心がける。

3. 家族との関係について

①生徒と家族との関係性がより広範に深まるように、生徒の日常的な取り組みへの賞賛や生き方・進路に係る話題を学級通信や保護者会・三者懇談等で学校から提供していく。